

牛群検定の利活用などについて、解説記事を掲載しています

1 全酪新報10月1日号 全国酪農協会

牛群検定ワンポイントレッスン その16 繁殖成績と生産乳量

繁殖成績が長期化すると生産乳量が減少すると言われてはいますが、牛群検定を使えば、そこを具体的に何キロ乳量が減少しているかチェックできます。

2 酪農ジャーナル10月号 酪農学園大学エクステンションセンター

牛群検定だより(第7回) 2013年度牛群検定成績速報から

未経産牛ゲノミック評価情報を農家での活用法を、帳票の見方から解説

登録不要！もちろん無料！

パソコンやスマートフォンを使って動画(ビデオ)で畜産が学べます！

畜産経営支援協議会のeラーニングが新しくなりました。従来は、面倒なユーザー登録をしなければなりませんでした。その必要がなくなりました。ちょうどYouTube等と同様の感覚で観ることができます。メニューも一層パワーアップしましたのでどうぞご覧になってみてください。

<http://elearning.lin.gr.jp/user/opening.php#> **畜産経営支援** **検索**

酪農関係の主なメニュー

- 1 牛群検定情報の活用
 - ①体細胞数編 ②繁殖編 ③ボディコンディションスコア編
- 2 搾乳技術の基本
 - ①準備編 ②搾乳編 ③後処理編 ④点検・整備編
- 3 イネWCSの作り方、与え方(乳用牛・肉用牛)
 - ①作り方 ②与え方
- 4 飼料米の作り方、与え方(乳用牛・肉用牛・豚・鶏)
 - ①作り方 ②与え方



その他、「法人化」「HACCP」「エコフィード」など、多数のメニューが揃っています

牛群検定を始めませんか？

6カ月間牛群検定の費用を助成する牛群検定試行を募集中！

本紙で度々紹介しております牛群検定の試行農家を募集しています。検定を行っている皆さんはすでにご承知と思いますが、牛群検定を実施すれば、上述のようなビデオをはじめ、様々な情報提供を受けることができ、酪農経営の改善に役立てることができます。お知り合いの農家に是非ともご紹介ください。

産子の性比が逆転？

公益社団法人畜産技術協会の発刊する「畜産技術」10月号によれば、農林水産省が毎年公表している畜産統計において、従来、♂：♀は105：100～108：100程度であったものが、平成25年において98.3：100と性比が逆転したとのことです。牛群検定においては産子の性比を平成22年から公表しています。牛群検定では図に示したように、都府県は畜産統計と同様に雄雌が逆転し98.2：100、北海道では雄雌が急接近し101.3：100となっています。原因は、雌雄選別精液の利用があげられますが、現在、受胎率が従来より高くなる精液も研究が進んでいることから更にこの傾向は顕著になるものと思われます。

牛群検定における産子性別比

注) 単子分娩のみ集計



分娩後の子宮の回復状況を牛群検定を活用してチェックしよう！

図は検定成績表の「繁殖の状況」の表示を拡大したものです。あなたの検定成績表には図のように分娩後の授精が長期間空欄になっている牛はいませんか？その場合、もし、発情の見逃しでなければ、分娩後の子宮回復などが思わしくない場合があり、また、それにともなって発情が無い、もしくはあっても極めて弱い発情であるため授精を回避していると考えられます。こういったことが多数にみられると繁殖成績を悪化させることになります。

まず、183号牛のように難産や双子出産の場合は一般に子宮の回復に時間を要しますので、難産を起こさないように乾乳時のボディコンディションが過肥にならないようにします。また、カルシウムコントロール、濃厚飼料馴致など分娩前のクローズアップ期の飼養管理にも留意しなければなりません。また、最近、話題になっていることのひとつに助産があります。とりわけ早すぎる介助がひどい難産の原因となっている場合がありますので、正しい助産を獣医師に相談するといいいでしょう。いずれ難産してしまった牛は子宮内膜炎などのリスクも大きいので、フレッシュチェックなどで獣医師の診断を受けるのがいいでしょう。

次に、184号牛のように難産が原因でなく、授精が遅れている場合は分娩後の飼養管理を確認します。飼料の食い込みが十分かどうか、適切な濃厚飼料を与えているか、盗食されていないか、群飼であればいじめられていないかを確認します。夏期であれば暑熱による採食量の低減等の夏バテがありますので、送風などを確認します。十分な飼料を食い込んでいるかどうかは、牛群検定成績の蛋白質率で判断するといいでしょう。授精適期である泌乳前期は最低でも2.8%、できれば3.0%を示せば十分に濃厚飼料を食い込んでいると言えます。

最後に150号牛や170号牛ですが、分娩後200日もたって初回授精を行っていないわけですから、繁殖障害をおこしているか、淘汰予定牛かのいずれかになります。これは指摘することもなく、農家自身が気づいていることでしょう。

(補足 成績表の様式)

検定成績表には3通りの様式があります。ここでは搾乳日数順で牛を並べた様式Aを紹介しています。様式Aでは分娩後45日目と150日目に太い実線が引かれているので、初回授精の遅れを容易に判断することが出来ます。また、群のなかで遅れている牛がどれくらいの数があるかなども同時に把握することが出来ます。

改善が必要な検定成績の見本

牛コード	分娩				搾乳 又は 乾乳 日数	繁殖の状況			
	年月日	産次	産子性別	難易		授精 月日	回数	EI	分子 予定 日
0187	241105	1	♂	1	7				
0186	241016	1	♀	1	27				
0179	241006	2	♀	2	37				
0177	240824	2	♀	2	80	10.24	6		
0185	240814	1	♀	2	90	10.24	1		
0184	240811	1	♀	1	93				
0174	240730	2	♀	2	105	10.27	1		
0183	240723	1	♀	5	112				
0176	240720	2	♀	1	115	10.13	3		
0167	240531	2	♂	2	165	11.03	3		
0173	240514	2	♀	1	182	10.18	1		
0182	240514	1	♀	1	182	08.23	1	250219	
0152	240306	4	♀	1	251	10.03	2		
0150	240226	4	♀	2	260				
0170	240201	2	♀	1	285				
0163	240113	3	♂	2	304	05.16	2	250219	
0171	240106	2	♀	1	311	04.25	3	250129	

改善ポイントの184号牛と183号は初回授精が遅れています。こういった場合は、発情見逃しでなければ、子宮回復の遅れ、鈍性発情等であることが多いようです。

150号牛と170号牛は淘汰予定でなければ、繁殖障害と判断できます。

<覚えておくと便利な記号>
検定成績表で様式Aを利用している場合は、搾乳日数の順番で牛が並んでおり、分娩後45日目と150日目に太い線が表示されます

改善ポイント